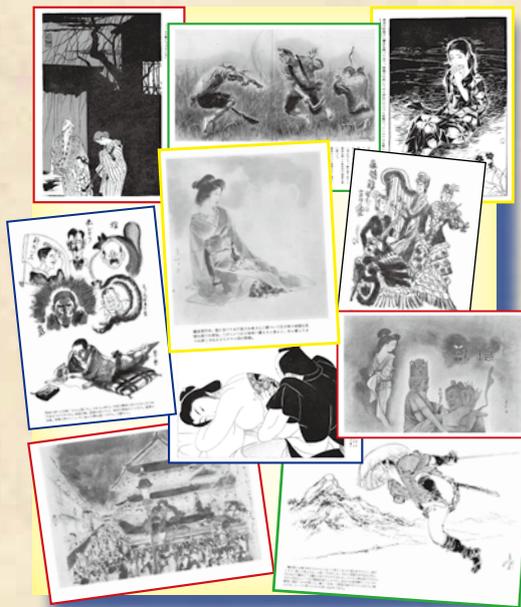


第一級洋画家・日本画家・漫画家：
総動員の「^か画き下ろし」^お挿画による
《超豪華・贅沢・唯一無比》名作文学全集

「この全集のために」
錚々たる画家が画き下ろし
「^{さしえ}挿画は独立した作品である！」を
宣言・実証した
日本の出版美術・挿絵文化史上に
燦然たる光彩を放つ大金字塔——
《知る人ぞ知る》超豪華挿画全集！



複製版編集 上 笹一郎

名作挿画全集

さしえ

全6巻
別巻1

(大空社 2014年10月刊)

明治・大正・昭和初頭
多くの人々に読まれた名作文学の名場面を
いま再びの感動をもって堪能する！

こんな^{ぜいたく}贅沢
二度と実現できない！



資料に命いのちを
作品に心こころを
形にして伝える。

www.ozorasha.co.jp

学術資料出版

大空社出版

名作挿画全集

全6巻
別巻1

複製版編集
上 笙一郎

さしえ
挿画をじっくり鑑賞しながら名作文学が読める

《唯一無比》の全集

小説・詩歌・股旅物・現代風俗・義理と人情・情痴の世界・怪奇・探偵
ユーモア・苦悩・悲哀・美人画・モダニズム…大衆が楽しんだ世界を満喫!

※ここに掲げた見本は実際の収録挿画の一部です。どの作品も原作を味わうに十分な数の名場面・カットが展開され、まさにへ見て・読めて・楽しめる文学全集となっています。

チヨビ安を連れて司馬察の焼跡に現れた丹下左膳。
「伊賀の暴れん坊源三郎が焼け死んだとは…フン、この火事はどうやら臭えぞ」



■志村立美・画<林不忘「丹下左膳」>より

*迫力の見開き画も多数収録。
画家の力量を満喫できる。

丹下左膳
（題）
「丹下左膳」は、江戸時代中期に活躍した小説家・林不忘の代表作である。この挿画は、志村立美によるもので、丹下左膳とチヨビ安の姿が描かれている。背景には、伊賀の焼跡が描かれており、物語の緊張感が伝わってくる。左膳は、チヨビ安を連れて、司馬察の焼跡に現れた。この火事は、伊賀の暴れん坊源三郎が焼け死んだことと関係している。この挿画は、丹下左膳の冷静な観察眼と、チヨビ安の忠告を聞き取らない左膳の愚直さをよく表現している。



*「解題(原作荒筋)」があるので(主要作品)内容理解がさらに深まります。

「この全集のために」画き下ろした、ここでしか見られない作品ばかり
 単純に新聞・雑誌に既に掲載済の挿絵を集めたものではありません。

第一級画家総動員の「画き下ろし」挿画

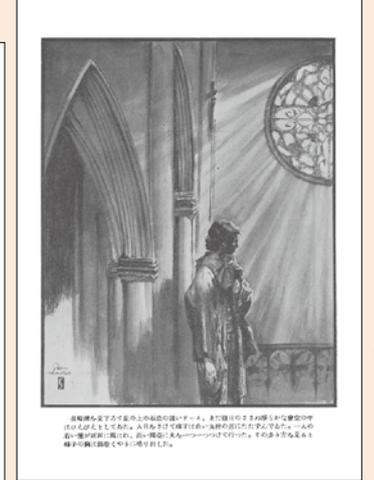


■ 鍋木清方・画
 〈樋口一葉「にぎりえ」〉より



構図・筆づかい・タッチ・陰影・場面選択……どの絵も画家が渾身の力をこめて描いた個性ある傑作です。

時代の感性が甦る！



■ 岩田専太郎・画
 〈菊池寛「明眸禍」〉より

収録作品の詳細は次ページの「収録画家・作品」をご覧ください。

初の挿絵美術の獲入れ——重要な資料的価値

上笙一郎（児童文化・生活史・挿絵研究）

〈挿絵〉は英語では「イラストレーション」であり、その意味は、前者は文学的な作品に「挿し込まれた絵」、後者は文学作品の内容を「照明するもの」というものであった。しかし、たとえば日本の平安時代より作られた『源氏物語絵巻』をはじめとする絵巻物や、フランス十九世紀文学におけるヴィクトル・ユゴーの小説『レ・ミゼラブル』のイラストレーションなどを見るなら、文学作品と挿絵とは、〈主従〉ではなくて〈等価〉の関係にあると言わなくてはならないだろう。そして、近代を経過して二十世紀に入った今日では、絵本やアニメーション芸術の突出ないし確立もあって、挿絵・イラストレーションを文学従属の文化と見る観方は後退した。挿絵・イラストレーションは、今日、文学と対等のものと確信されるようになってきているのである。

そういう挿絵・イラストレーションであるのだが、その認識と作品的な獲入れは、ほとんど為されて来なかった。『古事記』『万葉集』にはじまる日本文学作品の集積は、明治期このかた幾度もこころみられた。けれども、それらの〈文学〉作品に随伴していた〈挿絵美術〉の獲入れには、何故か全く心が及ぼされなかったのである。

かかる状況のなかで、初めて〈挿絵美術〉に心を掛けたのが、平凡社版『名作挿画全集』（一九三五「昭和十〇」三六「一一年」）であった。明治期より昭和戦前期までの挿絵画家の代表的な作品を集めており、近代日本における〈挿絵美術〉の歴史は、この全集を描いて見かつ考えることは出来ない。

特記すべきは、附録「さしゑ」十二冊。明治期このかたの挿絵画家たちが、随筆・随想のうちに、みずからの生い立ち・絵の学び・師匠の思い出・作画の思想や態度・ジャーナリズムとの関係などを語っており、挿絵画家研究・挿絵史研究に關しての文献的な宝庫と言つてあやまたない。

複製『名作挿画全集』が、日本の美術史、取り分け挿絵研究にたずさわるる人に、また文学研究者の眼にも止まって役立つことを、さらに研究のためではなく、諸家の挿画そのものを鑑賞されることを願う。

貴重

『名作挿画全集』（I～VI・別巻1）は、『名作挿画全集』全12巻、附録「さしゑ」全12号（平凡社、1935・昭和10年～1936年）を複製したものです。原本の2巻ずつを合本しI～VIの構成とし、別巻に附録「さしゑ」、解説・目次・索引を収録しました。

附録「さしゑ」12冊

なかなか揃わない全冊を複製（別巻に収録。モノクロ1色印刷）。挿画美術・印刷・出版史の貴重資料であり、挿画作品の公募・投稿・発表の場には後の著名作家の名が連なる。



・画家名五十音順
 ・〈明治大正名作(挿画)集〉は代表的画家の作品で時代を振り返るもの
 ・〔 〕は附録「さし系」収録の文

(一部)

荒井寛方▷大仏次郎「大楠公」
 新井芳宗▷〈明治大正名作挿画集〉;〔挿画の思ひ出話〕
 井川洗厩▷本田美禪「お洒落狂女」;〔師匠の飼猫を殺して破門された稲野年恒〕〔思ひ出すまゝに〕
 池部鈞▷久米正雄「地蔵教由来」;〔制限内で描く挿絵〕
 伊勢良夫▷片岡鉄兵「流れある景色」
 一木亨▷戸川貞雄「愛の航空路」
 伊藤幾久造▷戦争画譜;高垣眸「快傑黒頭巾」;〔私の挿画 別久米正雄「地蔵教由来」〕
 伊東頭▷加藤武雄「珊瑚の鞭」
 稲野年恒▷〈明治大正名作挿画集〉
 岩田専太郎▷菊池寛「明眸禍」;子母沢寛「菩薩の花」;
 三上於菟吉▷「雪之丞変化」;〔挿画の目的について〕〔流動美を中心に(挿絵画家打明け話)〕
 近江砂人▷古川柳;〔川柳芸術の前進譜〕
 太田三郎▷矢田挿雲「太閤記」;〔挿絵雑話〕
 大橋月皎▷長田幹彦「島の娘」
 岡本一平▷刀を抜いて;〔漫画の挿画に就て〕
 小田富弥▷子母沢寛「弥太郎笠」;古川柳(近江砂人);
 〔猫の欠伸〕
 梶田半古▷〈明治大正名作集〉
 加藤まさを▷抒情詩;小説 消えゆく虹;〔挿画漫論〕〔万人が一生涯縁のある挿画芸術〕
 椋島勝一▷海の画譜;福永恭助「翼の誓ひ」;谷譲次「新巖窟王」
 鏑木清方▷樋口一葉「にごりえ」;〔月岡芳年先生を憶ふ〕〔年方先生の面影〕
 鴨下晁湖▷長谷川伸「沓掛時次郎」;〔現代画大家展覧会を見て〕
 苅谷深隍▷佐々木味津三「右門捕物帖」;〔挿画・作家・読者〕
 川上四郎▷小川未明 童話;童謡其他
 川端龍子▷〈明治大正名作挿画集〉 白井喬二「富士に立つ影」

小説・詩歌・股旅物・現代風俗・義理と人情・情痴の世界・怪奇・探偵
 ユーモア・苦悩・悲哀・美人画・モダニズム…大衆が楽しんだ世界を満喫!

木村莊八▷樋口一葉「たけくらべ」;〔誤まられては迷惑な挿絵画稿と素描〕〔作品の空気が大切(挿絵画家打明け話)〕
 小池巖▷北村小松「初化粧」;〔近代女性と理智美(挿絵画家打明け話)〕
 河野通勢▷田中貢太郎「旋風時代」;〔挿絵を語る〕〔時代考証と雰囲気(挿絵画家打明け話)〕
 小杉放庵▷〈明治大正名作挿画集〉「絵本西遊記」「絵本水滸伝」
 小林秀恒▷菊池寛「貞操問答」;小島政二郎「薔薇ならば」;牧逸馬▷「双心臓」「時代物三篇」;〔僕の机の上〕〔主人公は美男美女(挿絵画家打明け話)〕
 小堀鞆音▷〈明治大正名作集〉
 小村雪岱▷邦枝完二「お伝地獄」
 近藤紫雲▷八百屋お七;〔木版について〕
 斎藤五百枝▷直木三十五「由比根元大殺記」;自然と人;〔挿絵漫語〕〔挿絵とその著作権—著作権審議会と挿画家の主張〕〔困難な時代考証(挿絵画家打明け話)〕
 佐野繁次郎▷横光利一「寝園」;〔雑感〕
 清水三重三▷抒情小唄八篇;谷崎潤一郎「お艶殺し」;
 情小唄
 志村立美▷林不忘「丹下左膳」;菊池寛「新道」;小島政二郎「人妻椿」;〔さし系打明け話〕
 神保明世▷邦枝完二「振袖役者」;〔国貞張りに描いて見た「振袖役者」〕
 鈴木華邨▷〈明治大正名作集〉
 鈴木御水▷南洋一郎「魔都の白女王」
 鈴木朱雀▷野村胡堂「三万両五十三次」;菊池寛「日本合戦譚」;〔ちぎれ話二三〕〔挿画の変遷—江戸時代より明治に至る挿絵家とその傾向〕
 須藤しげる(重)▷抒情画譜;吉屋信子「花物語」;〔そうかも知れない〕〔抒情画の描き方〕
 高島華宵▷長田幹彦「祇園夜話」「嘆きの夜曲」

(次頁へつづく)



(収録挿画より)

武内桂舟▷〈明治大正名作挿画集〉〔桂舟思ひ出話〕
 竹中英太郎▷ 江戸川乱歩「陰獣」；〔「陰獣」因縁話〕
 竹久虹之助▷ 〔父夢二に就いて〕
 竹久夢二▷ 竹久夢二挿画
 田代光▷ 林芙美子「愛情」；〔僕と挿画〕
 橘小夢▷ 十一谷義三郎「唐人お吉」；〔「唐人お吉」挿画後記〕
 立野道正▷ 水谷まさる「涙の拍手」
 田中比左良▷ 中野実「女軍突撃隊」；近世娘十態；〔僕の通俗弁一重に後進画学青年の為に〕〔ダンスホールにて〕
 田中良▷ 菊池寛「第二の接吻」；〔挿画の仕事〕
 谷洗馬▷ 〈明治大正名作挿画集〉
 月岡芳年▷ 〈明治大正名作挿画集〉
 寺本忠雄▷ 菊池寛「妖麗」；〔挿画の持つ社会的意義〕
 堂本印象▷ 里見淳「道草」；村松梢風「巷説時雨双紙」；三上於菟吉▷ 「毒婦一国凶」；土師清二「恋施餓鬼」
 富岡永洗▷ 〈明治大正名作集〉
 富田千秋▷ 菊池寛「良人ある人々」；〔百科事典にあらず〕
 富永謙太郎▷ 菊池寛「父帰る」；海音寺潮五郎「青空街道」；久米正雄「龍涎香」；〔内あけ話〕
 中川一政▷ 尾崎士郎「人生劇場」；〔挿絵について〕〔カット〕
 中村岳陵▷ 三上於菟吉「妖艶飛鳥剣」「春宵狐若衆」；〔挿画制作の妙諦〕〔挿絵と時代考証〕〔挿絵画家たらんとする者へ〕
 中村研一▷ 岡田三郎「春の行列」；〔私の挿画〕
 名取春仙▷ 長谷川伸「雪の渡り鳥」；〔私の純文芸挿画時代回顧〕
 林唯一▷ 久米正雄「月よりの使者」；牧逸馬「地上の星座」；〔挿絵画家志望者へ〕

鱒崎英朋▷ 〈明治大正名作挿画集〉〔明治大正挿絵の追憶〕
 落谷虹児▷ 抒情画譜；〔抒情画について〕
 福岡青嵐▷ 直木三十五「合戦」；〔挿画略歴〕
 布施長春▷ 湊邦三「天保小唄峠」
 細木原青起▷ 夏目漱石「坊つちやん」；蕪村俳句；〔想ふまゝを〕〔俳画とさし糸〕
 松野一夫▷ 新東京五景；小栗虫太郎「黒死館殺人事件」
 右田年英▷ 〈明治大正名作挿画集〉
 水島爾保布▷ 労山道士「聊齋志異」；〔画師と彫師〕
 水野年方▷ 〈明治大正名作挿画集〉
 嶺田弘▷ 広津和郎「女給」；中村武羅夫「白蛾の舞」
 宮川曼魚▷ 〔春仙礼讃記〕
 宮本三郎▷ 三角寛「丹沢山悲炎記」；菊池寛「三家庭」；〔山窩をたづねて〕
 村上松次郎▷ 平田晋策「南海の軽騎兵」
 梁川剛一▷ 広津和郎「青麦」
 矢野橋村▷ 長谷川伸「紅蝙蝠」
 山川秀峰▷ 瀬戸英一「二筋道」
 山口将吉郎▷ 吉川英治「胡蝶陣」「月笛日笛」
 山口草平▷ 行友李風「月形半平太」；〔挿画について〕
 山村耕花▷ 大仏次郎「大久保彦左衛門」；〔共通を避ける苦心（挿絵画家打明け話）〕
 山六郎▷ 短歌；浜本浩「十二階下の少年達」；〔本の装釘とカット〕〔さし糸問答〕
 吉田貫三郎▷ 片岡鉄兵「花嫁学校」；〔最近の僕〕
 吉邨二郎▷ 林芙美子「白鳥」；抒情挿画
 渡辺郁子▷ 加藤まさを「抒情詩」
 渡部審也▷ 〔挿画小言〕
 渡辺省亭▷ 〈明治大正名作挿画集〉
 〔（座談）近代女性美を語る：岩田専太郎・小田富弥・加藤まさを・斎藤五百枝・林唯一・細木原青起・山六郎〕

ページを繰れば思わず引き込まれる
 文芸の楽しさ再発見！

画・文 二重奏の興趣、ここに極まる！



(収録挿画より)

豪華・贅沢・唯一無比! 「^か「^お画き^{さしえ}下ろし」挿画」名作文学全集

さしえ

名作挿画全集

全6巻
別巻1

複製版編集 上 筈一郎

(大空社 2014年 10月刊)

第一級洋画家・日本画家・漫画家総動員

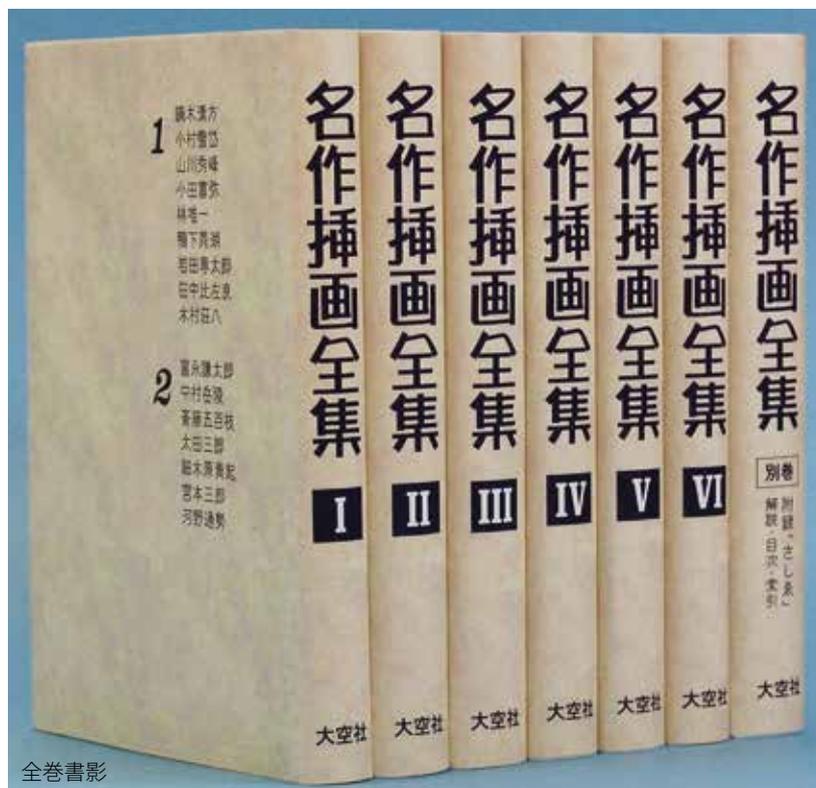
この全集のために画き下ろした挿画が織りなす

出版美術史上の不滅の大金字塔

明治・大正・昭和初頭

多くの人々に読まれた名作文学の名場面

ページを繰れば胸躍る!



全巻書影

A5判・上製(本文モノクロ1色印刷) 第1~6・各巻平均330頁・別巻500頁

■全6巻・別巻1 揃定価(本体100,000円+税)〈分売不可〉

ISBN978-4-283-01309-4

楽しみに
研究に

必見
必読

美術・文学・漫画・デザイン
印刷・出版・ジャーナリズム
大衆文化・社会・世相・風俗…

いま再びの感動をもって味わう名作の真髓
優雅 艶美 抒情 可憐 痛快 豪壮 熱情 頹廢 懊惱 滑稽…
画・文二重奏の興趣、ここに極まる!

*書店では扱っておりません。お問い合わせ、お申し込みは下記へ。(専売) 国内販売元

学術資料出版
大空社出版

www.ozorasha.co.jp

東京都北区中十条 4-3-2
(〒114-0032)
TEL:03-5963-4451
FAX:03-5963-4461
eigy@ozorasha.co.jp



パンセ
学術図書販売(株)

〒650-0011 神戸市中央区下山手通 6-1-4 オフィス 下山手 3B
TEL 078-945-7835 FAX 078-945-7886

0120-518-521

E-Mail: contact@tosho-pensee.com https://www.tosho-pensee.com